

中国景気概況(2023年6月)

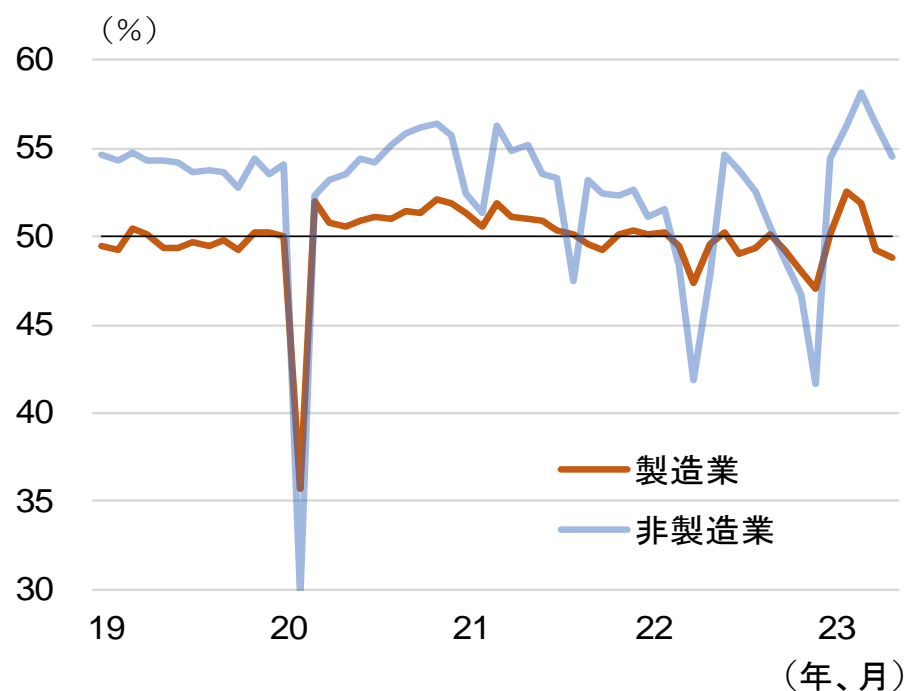
2023年6月2日

調査部 研究員 丸山 健太

景気持ち直しのペースが鈍化

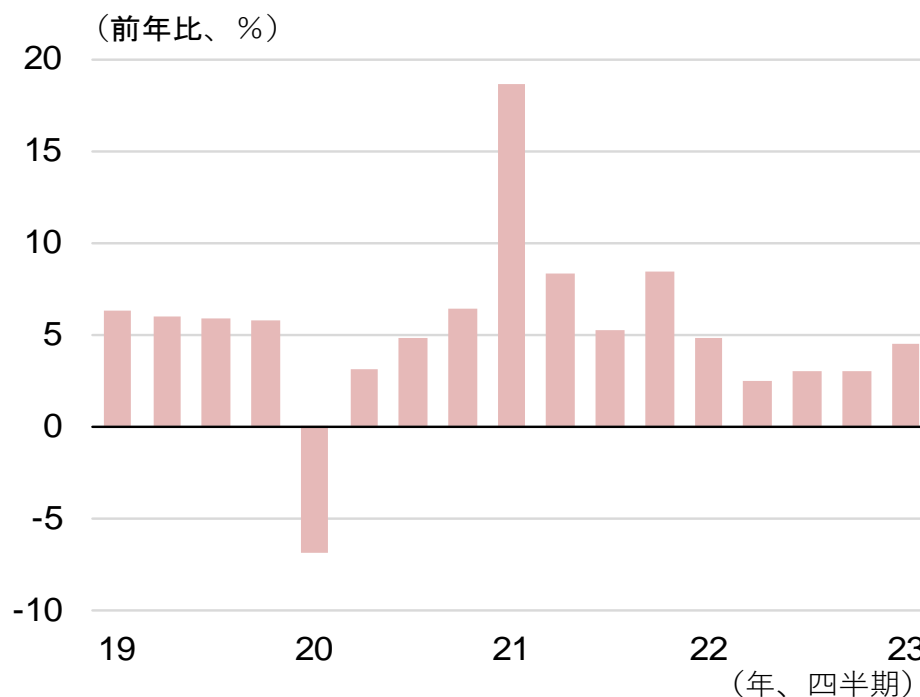
中国景気は持ち直しているが、そのペースは鈍化した。5月のPMIは、製造業、非製造業とも低下した。製造業は内外需の弱さを反映し、2ヶ月連続で好不況の境目である50を下回った。非製造業は、旅行関連や情報サービス関連の業種の堅調が続き、50超を維持したが、2ヶ月連続で低下し、持ち直しのペースが鈍化した。2023年1～3月期の実質GDP成長率は前年比+4.5%だった。ゼロコロナ政策の撤廃と不動産業の底打ちで、第三次産業の増加寄与が大きかった。

PMI



(出所) 国家統計局

実質GDP(四半期)



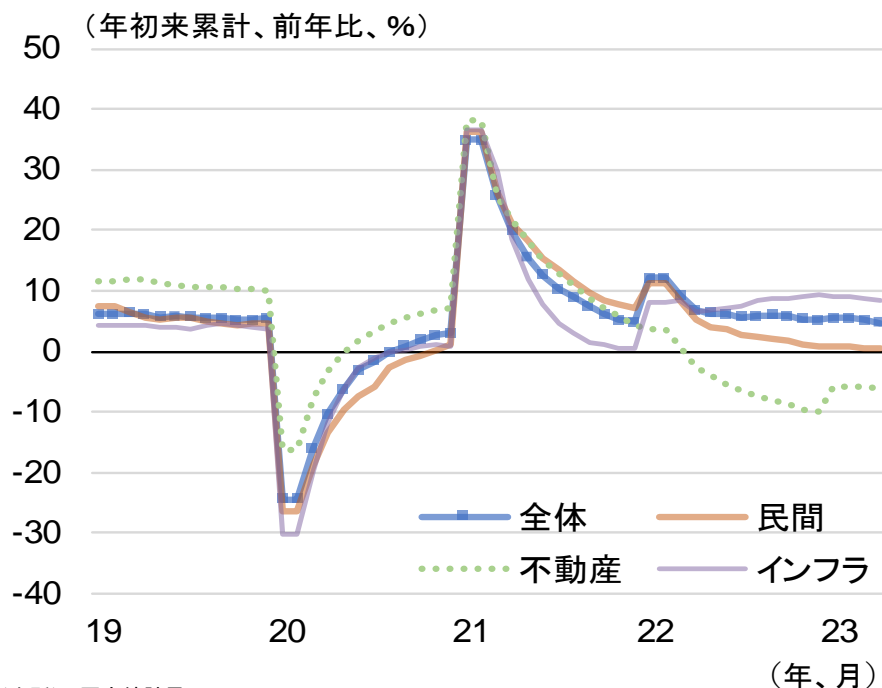
(出所) 国家統計局

固定資産投資は増加幅縮小、生産は昨年の反動増も前月比で減少

4月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+4.7%と増加幅が縮小した。不動産投資は13ヶ月連続で前年割れとなった。全体の5割以上を占める民間投資は同+0.4%と、2022年12月以降、0%台の低い伸びが続き、低迷している。

4月の工業生産は、前年比+5.6%と増加幅が拡大した。もっとも、上海ロックダウンの影響で落ち込んだ昨年4月の反動で押し上げられたものであり、季節調整済み前月比は-0.47%と5ヶ月ぶりに減少した。

固定資産投資



(出所) 国家統計局

工業生産



(出所) 国家統計局

消費の回復ペースは鈍化、物価は上昇幅縮小

4月の小売売上高(名目)は前年比+18.4%と増加幅が大きく拡大した。特に、ゼロコロナ政策撤廃の恩恵が大きい飲食サービス消費の増加が大きかった。ただし、前年比増加率は上海ロックダウン渦中だった昨年4月の落ち込みからの反動が大きい。一方、季節調整済み前月比増加率は2月をピークに徐々に縮小しており、回復ペースはむしろ鈍化している。

4月の消費者物価上昇率は前年比+0.1%と上昇幅が縮小した。自動車など消費財価格が約2年ぶりに前年割れした。

小売売上高(名目)



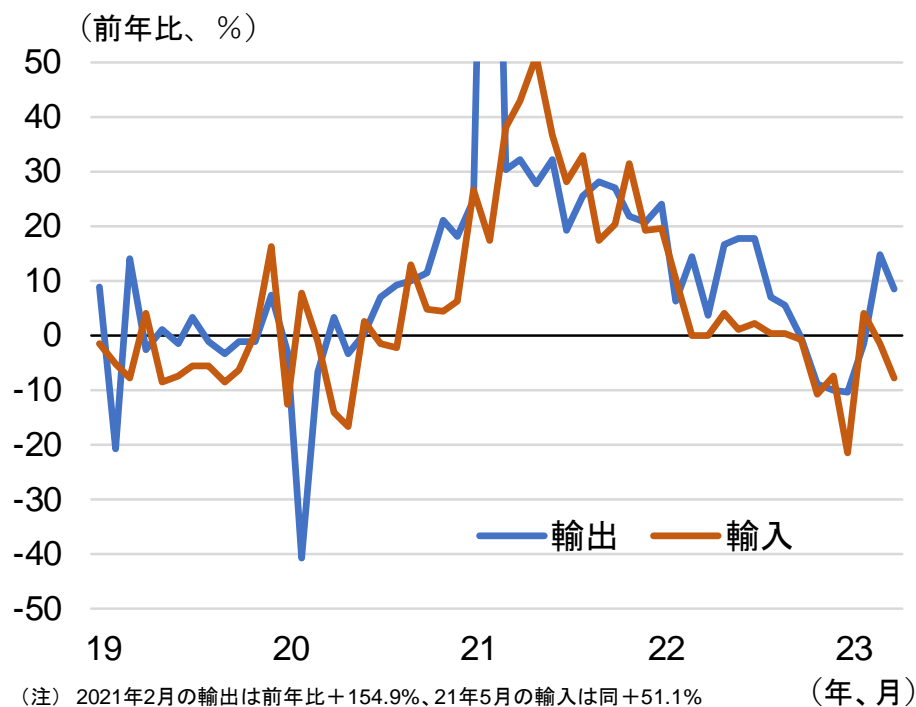
消費者物価指数



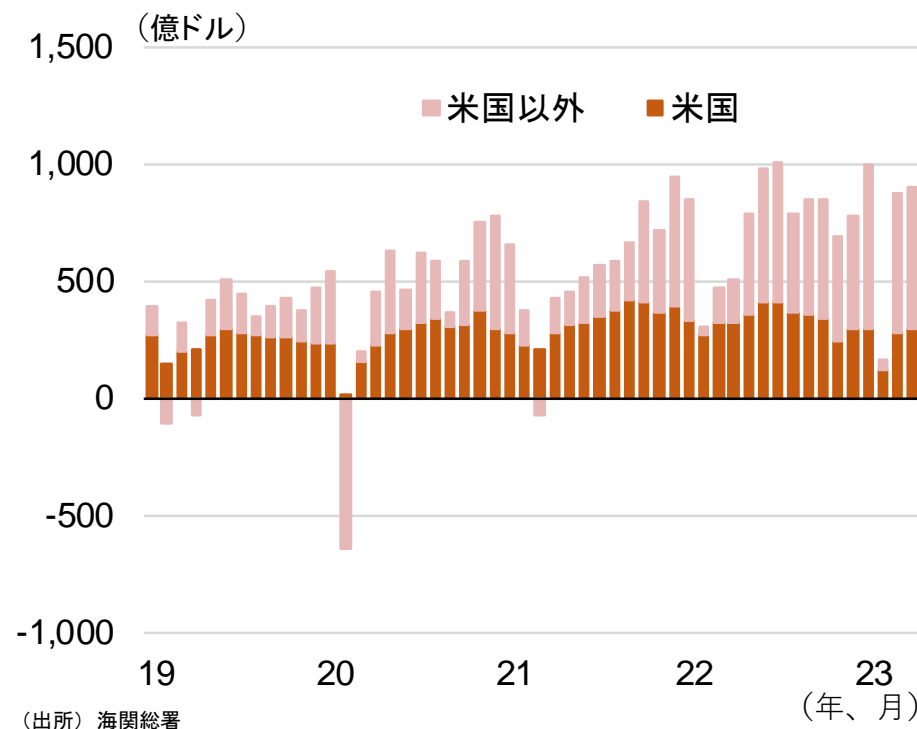
輸出は増加幅縮小、輸入は減少幅拡大

4月の輸出は前年比+8.5%と増加幅が縮小し、輸入は同-7.9%と減少幅が拡大した。貿易黒字は902億ドルと、前年同月(511億ドル)から拡大した。輸出は、米国向けが9ヶ月連続で前年割れとなったほか、2, 3月に大きく増加したASEAN向けの増加幅が縮小した。輸入は、内需の弱さを反映し、減少傾向が続いた。特に、集積回路など電子部品や乗用車が大きく減少した。貿易収支は、ASEANや日本、韓国など対アジアの黒字拡大の影響が大きかった。

財輸出入



貿易収支

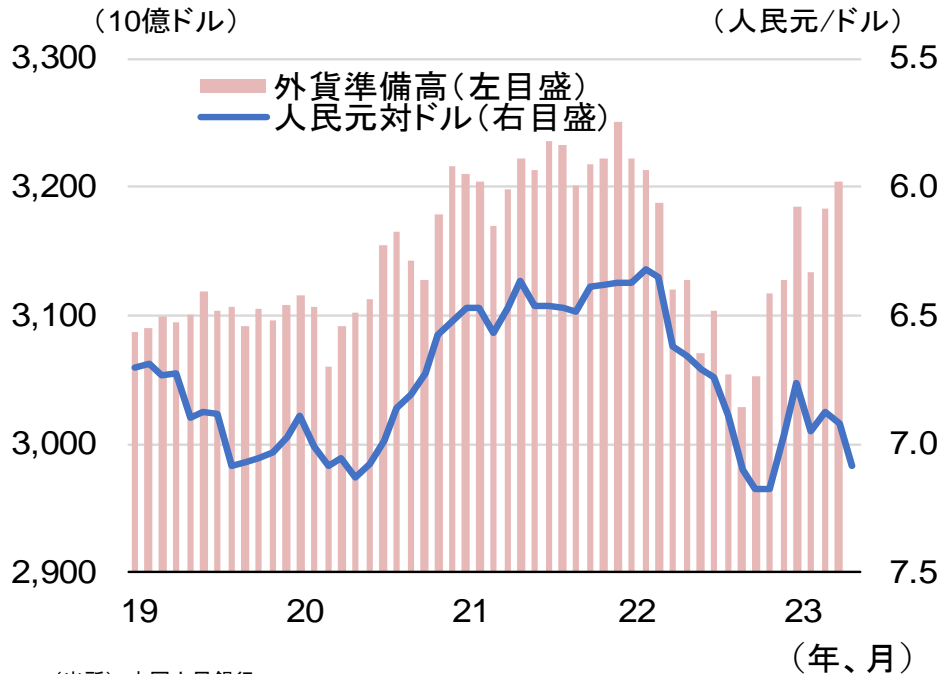


為替は元安、株価は下落

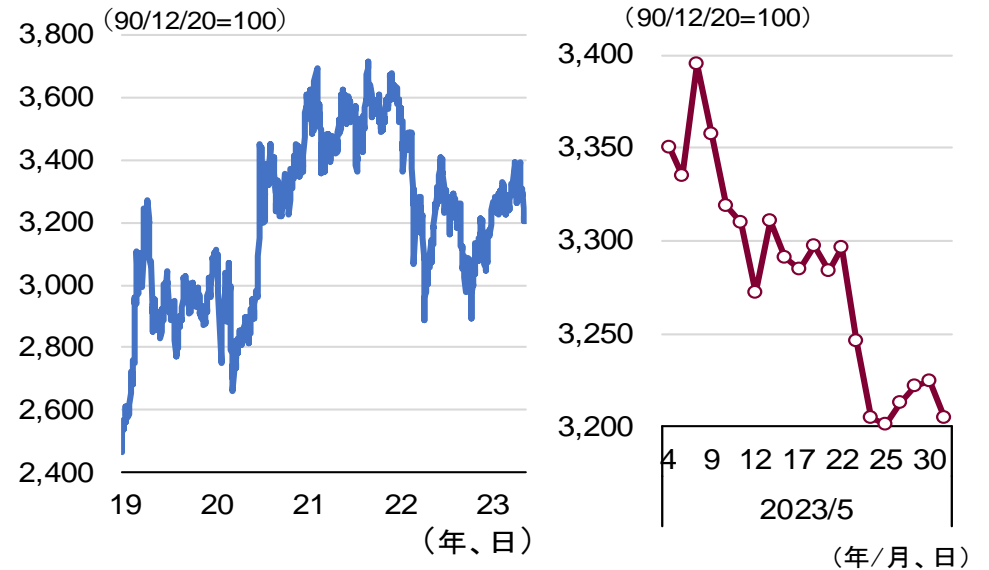
人民元の対ドルレート(5月末値)は1ドル=7.08元と、半年ぶりの元安水準となった。中国景気の持ち直し鈍化や、米中金利差拡大を背景に、ドル高・元安が進んだ。4月末の外貨準備高は、3兆2048億ドルと増加した。

5月の上海総合株価指数は下落した。米中对立激化、中国景気減速、元安による資金流出などへの警戒感の高まりが株価の下押し要因となったほか、月後半には新型コロナ再拡大懸念も加わり、株価の下落が加速した。

外貨準備高



上海総合株価指数

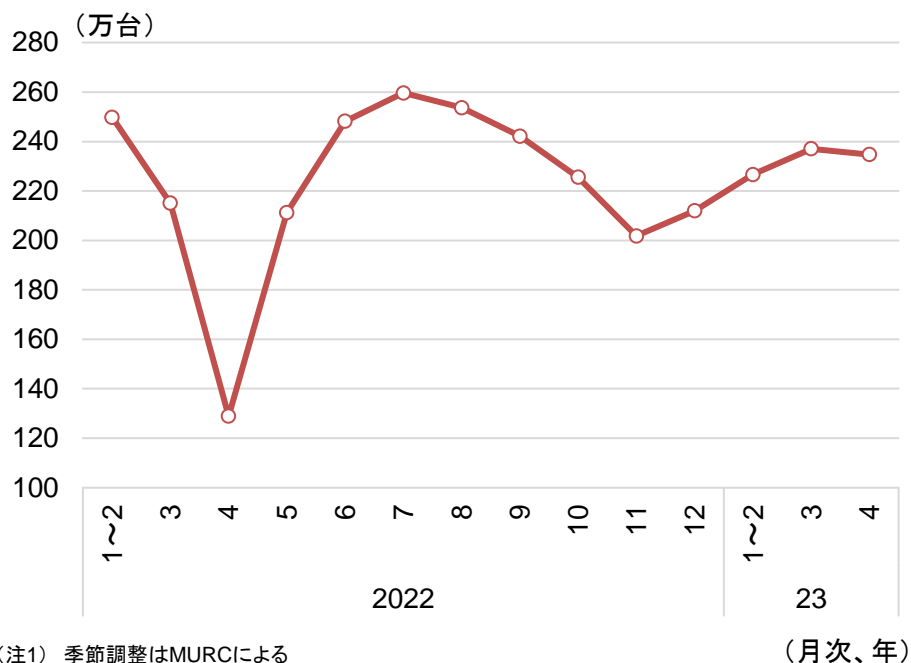


自動車販売は年明け持ち直しも、回復ペースは鈍い

自動車販売台数の回復ペースが足元で鈍化した(左図)。2022年の自動車販売の水準(季節調整値)をみると、3~4月に上海ロックダウンの影響で落ち込み、その後急回復したが、年後半には新型コロナ感染拡大を背景に再度減少傾向に転じた。年末のゼロコロナ政策撤廃を契機に、今年に入り持ち直したものの、足元で増勢が一服した。

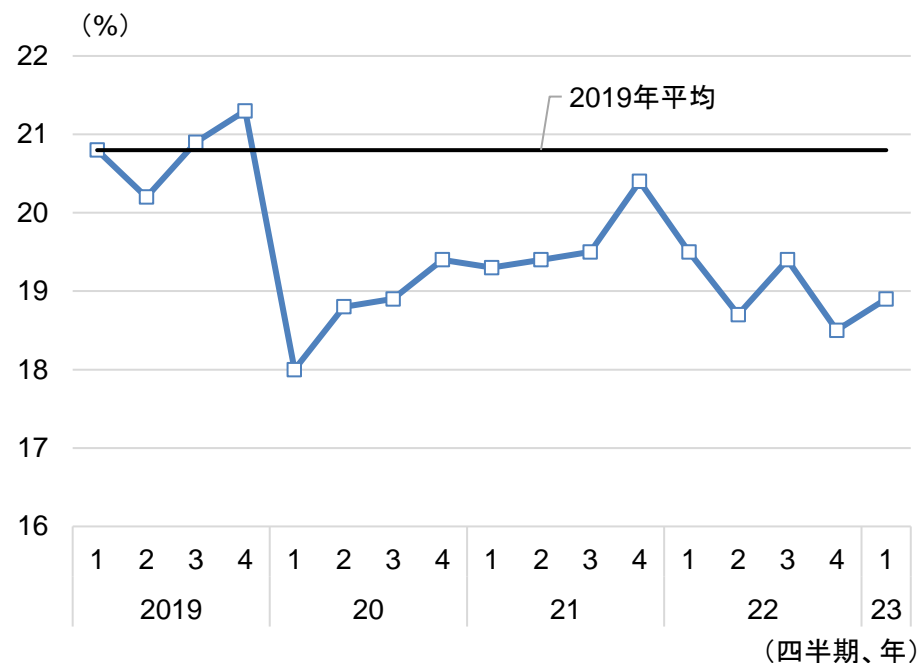
今後も持ち直しペースの再加速は期待できない。雇用・所得情勢が悪化する中、自動車をはじめとした高額商品を購入しようとの意欲は低い(右図)。代表的な耐久消費財である自動車の販売低迷は、個人消費回復の抑制要因となろう。

自動車販売台数(季節調整値)の推移



(注1) 季節調整はMURCIによる
 (注2) 「1~2月」は1月と2月の平均
 (出所) 中国自動車工業協会

向こう3ヶ月で「高額商品」支出を増加させようとの人の割合の推移



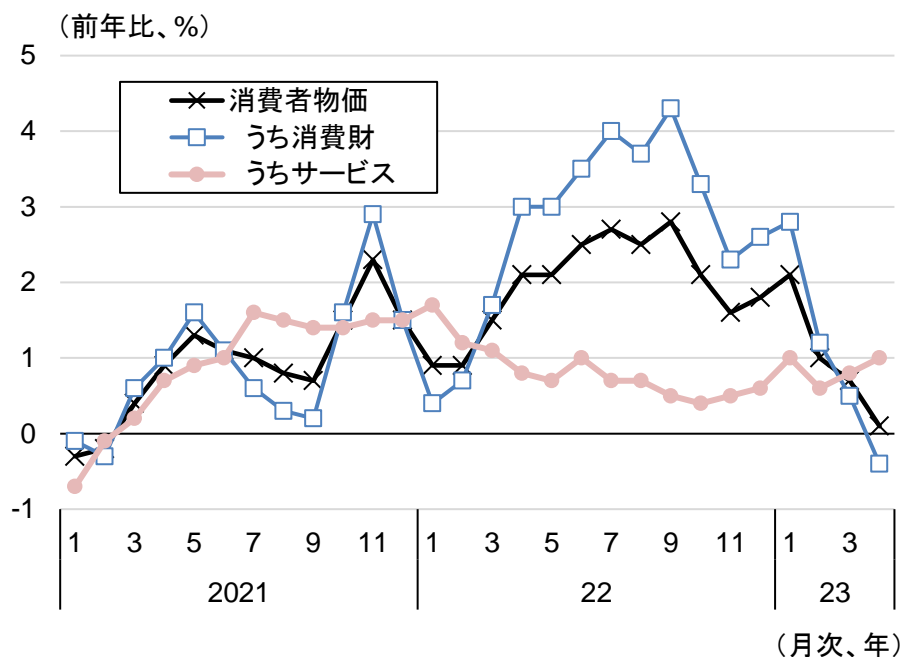
(出所) 中国人民銀行「都市預金者アンケート調査報告」

消費財価格の下落を受け、消費者物価は低迷

消費者物価指数の上昇幅が足元で大きく縮小した(3頁参照)。内訳をみると、「サービス」は足元で上昇幅が拡大した一方、「消費財」は2021年2月以来、約2年ぶりに前年割れした(左図)。

品目別の内訳をみると(右図)、航空券や宿泊代など、2022年末のゼロコロナ政策撤廃で需要回復が顕著な旅行関連の品目の価格上昇が目立つ。一方、国際商品市況の下落や豊作などの影響により、エネルギーや生鮮野菜の価格が大きく低下した。また、自動車などは需要の弱さを反映し、価格低下が続いている。

消費者物価指数(前年比)の推移



(出所) 国家統計局

価格が上昇/低下した主な品目(2023年4月、前年比)

	品目	前年比変化率
上昇した主な品目	航空券 (航空旅客サービス)	+7.2%~ +28.7%
	ホテル宿泊代	
	旅行サービス	
	交通手段レンタル費 (レンタカー代等)	
低下した主な品目	ガソリン	-10.6%
	軽油	-11.5%
	生鮮野菜	-13.5%
	小型車、小型新エネルギー車 家庭用品	前年比の公表はないものの、 前月比の低下が続く

(出所) 国家統計局公表資料よりMURC作成

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください